

「文学のまち大津」今年度の主な取組 進捗状況

文化振興課

①「文学のまち大津」フォーラム

日時 令和8年12月6日(日) 午後

会場 大津市役所 別館 大会議室

定員 約180名

目的

- ・大津の文学的な魅力を市民に伝え、文学に親しむ裾野を広げる。
- ・「文学のまち大津」の知名度・ブランド価値の向上を図り、UCCN文学分野への加盟を見据える。

主なプログラム

- 「創造都市とは何かー文学のまち大津に向けて」佐々木 雅幸 氏
- 対談「翻訳家が読み解く、本を読む・書く愉しさ」村井 理子 氏 × 森田 恵奈 氏
- 取組報告 成安造形大学・岡山市

② 文学さんぽ

- 市内の文学作品に関連する文化財をめぐり、大津の文学と歴史を現地で体感する取組
- **10/27 瀬田**（俵藤太ゆかりの瀬田唐橋や瀬田廃寺と近江国庁跡をめぐる）、**11/3 堅田**（松尾芭蕉ゆかりの本福寺や十六夜公園、芭蕉句碑をめぐる）、**11/17 膳所**（木曾義仲ゆかりの場所や今井兼平墓などをめぐる）の3コースを実施予定
- 文化財保護課等と連携し、文学資源を「知る」だけでなく「歩いて体験する」機会を創出
- 今後も各地域の文学資源を掘り起こし、地域の講座やまち歩き等との連動・継続につなげる。



令和8年1月27日実施(参加者15名)

京阪大谷駅から関蟬丸神社、長安寺、大津城跡などを巡り、大津に残る文学関連の歴史・文化財を現地で解説。大津と文学とのつながりや、歴史の豊かさを体感する機会となった。

③ 「文学のまち大津」PR動画の制作

- 市民やUCCN審査等に「文学のまち大津」の取組を端的に伝える説明ツールとして制作
- 視覚的な訴求力、多言語対応、国内外での活用のしやすさから動画制作を採用
- 3～5分程度の短編を中心に検討。文学資源の厚み（過去）→多様な活動（現在）→まちの可能性（未来）を描く構成
- 今後、10月に構成・シナリオを固め、11月～2月に撮影・編集、3月完成を目指す。



④-1 湖都の葉マルシェ（「文学のまち大津」実行委員会での事業）

令和8年10月3日（土）10:00–15:00 開催

位置付け:「文学のまち大津」ブランディング事業の中核イベント。文学をテーマに市民・作家・地域をつなぐ参加型マルシェ。

目的・意義

① 作家・クリエイターが活躍できる

表現の場を提供し、作家・市民団体との交流・連携を後押し。

② 将来の作家・クリエイターの掘り起こし・育成

多様な作品・活動に触れ、市民自らが担い手となる動機づけ。

③ 文学ファンの創出

関心の低い市民が文学の魅力に気づくきっかけを提供。

④ 「文学のまち大津」を市内外に発信

ゆかりの深いまちとして広くPRし、シビックプライドを醸成。

⑤ 地域の賑わい創出

中心市街地を含む賑わいを創出。

主催:文学のまち大津実行委員会・・・「文学のまち大津」の実現に向け、行政だけでなく、市民・事業者・大学・文化関係者など多様な主体が連携し、具体的な取組を実践する組織。パートナー同士の新たなつながりや取組の創出を目指す。（事務局受託事業者:一般社団法人地域改革）

会場

メイン: なぎさ公園 おまつり広場・修景緑地

サテライト: 大津市民会館

コンテンツ

- 文学作品のフリーマーケット（150ブース）
- ステージ（宮島未奈先生のトークショーほか）
- コンセプトフードエリア「発酵とスパイス～香る、めぐる。～」
- 大津市PRブース、出版社ブース、古本市、本の譲渡会、ワークショップ
- ことばのインスタレーション展示、絵本の読み聞かせ・譲渡会、
- ジャズフェス主催フードエリア

④-2 湖都の葉マルシェ（「文学のまち大津」実行委員会での事業）



⑤-1 その他 「文学のまち大津」実行委員会での事業

「文学のまち大津」の実現に向け、行政だけでなく、市民・事業者・大学・文化関係者など多様な主体が連携し、具体的な取組を実践する組織。パートナー同士の新たなつながりや取組の創出を目指す。（事務局受託事業者：一般社団法人地域改革）

(1) 「文学のまち大津」プロジェクトパートナー連携会議の実施

- 第1回をR8年7月1日、第2回を8月17日に開催
- 書店、出版社、ZINE制作者、クリエイターなど、文学に関わる団体が参加。
- それぞれの活動や今後の取組を共有し、参加者同士で意見交換を実施。
- 今後もテーマを設定して継続的に開催し、既存イベントとの連携など、パートナー同士の新たなつながりや取組の創出を目指す。



(2) 「文学のまち大津」展示コーナーの設置

- 大津市立図書館の郷土資料コーナーを「文学のまち大津コーナー」としてリニューアル。
- 大津ゆかりの作家や作品、地域誌、市民制作のZINEなどを展示する予定。
- 大津の文学的資源を身近に知り、楽しめる常設拠点として整備する。

⑤-2 その他 「文学のまち大津」実行委員会での事業

(3) 大津を舞台とした物語を執筆する作家への支援

- 大津を舞台とする小説や漫画などの創作を促すため、作家が市内を取材する際の交通費、宿泊費、施設入館料などを支援。
- 京都芸術大学とも連携し、学生による市内フィールドワークと作品制作を実施。
- 新たな「大津を舞台とした物語」が生まれる環境づくりを進める。

(4) 「文学のまち大津」～文学時間～

- 令和9年1月10日～2月9日、市内の書店、カフェ、ギャラリー、図書館などを会場に開催予定。
- 展示、読書会、文学散歩、著者トーク、ZINE制作など、参加事業者がそれぞれ自主企画を展開。
- 市内各所で文学に触れる機会をつくり、「文学のまち大津」をまち全体で盛り上げる。